

【1.体制】

常勤医師1名。

【2.取組内容と実績】

整形外科で提唱している「ロコモティブシンドローム（略してロコモ）」の原因には、生活習慣病や運動不足、加齢による筋肉の衰え（サルコペニア）やフレイルが基盤にあり、腰痛・膝痛・転倒・骨折が組み合わさり生活機能を悪化させる。

特に重要な疾患は変形性膝関節症（膝OA）、骨粗鬆症とそれに関連する脊椎・大腿骨近位部骨折（HF）である。HF受傷後1年後の死亡率は12.5%と報告されている。筋力低下や活動性の低下があれば、心疾患や肺炎で死亡するリスクも3倍高くなる。予防のためには普段から散歩や体操などの運動習慣と食事（栄養）が必要である。

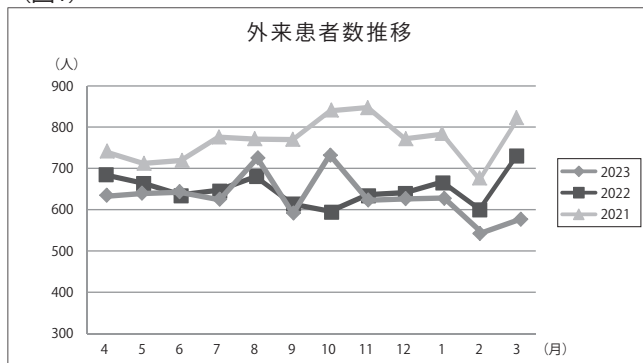
骨密度や体組成の計測、MRIによる画像診断を組み合わせ、膝痛・腰痛・慢性痛・神経障害性疼痛などの痛みの治療やリハビリ、骨粗鬆症の薬物治療に取り組んでいる。当科の成績は、所属学会の整形外科関連学会、日本骨粗鬆症学会、サルコペニア・フレイル学会等で毎年発表・報告を行っている。

当科では週3回の外来を行っており、外来の延患者数は7,619名（図1）、入院延患者数は4,643名であった。（図2）入院患者の主な疾患は胸腰椎圧迫骨折・大腿骨近位部骨折が例年同様多数を占めており、前年度とほぼ変わらない状況であった。

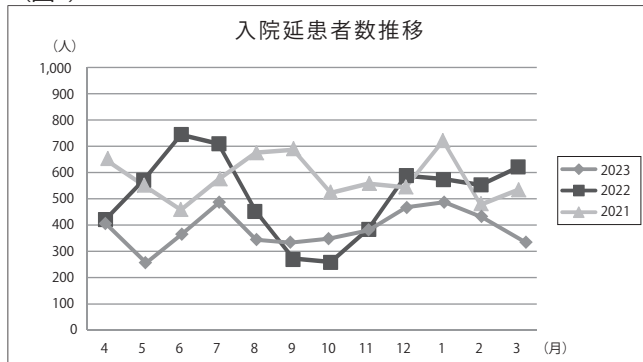
【3.今後の課題】

次年度より常勤医師の退職に伴い、この地域から整形外科医が不在となる。早急な医師の確保と診療体制の整備が求められる。

（図1）



（図2）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
観血的骨接合術	1	1	2			1	2	1		1	1	1	11
四肢切断術													0
人工膝関節置換術 (TKA)			1							1			2
抜釘術	1	1					1						3
人工骨頭置換術													0
腱鞘切開術													0
手根開放術		1											1
異物摘出術	1												1
腱縫合術													0
軟部腫瘍摘出術	1												1
徒手整復													0
その他					1						1		2
合計	4	3	3	0	1	1	3	1	0	2	2	1	21

